

[STEP 6] ～札を覚えよう(その5)～

[I] 《み》

ここでは、「み」で始まる札五枚を覚えよう。詠札百枚の中から「み」で始まる札百枚を探してほしい。詠札百枚といったものの今まで暗記した「むすめふさほせ」七枚、「うつしもゆ」十枚、「いちひき」十二枚、「はやよか」十六枚を予め除いておけば、詠札五十五枚の中から探せばよいのでかなり楽に探せる筈である。同様に取札の中から今探し出した「み」で始まる五枚の詠札に対応する取札を探す場合も、今まで覚えた四十五枚の札を除いておけば楽に探し出せる。「み」札五枚の内訳は、二字決まりが「みせ」と「みち」と「みよ」の三枚、三字決まりが「みかき」と「みかの」の二枚である。二字めの音(字)を取って「み」は「かちよせ」と覚える。「み」札の二字めが「か」の札が二枚あることを失念しないように「かかちよせ」と覚える覚え方もある。さて、決まりの変化についても各自でパターンを確認してみよう。次に取札を見て、決まり字が言えるようにしましょう。これで皆さんは、百枚のうち半分の五十枚の札を覚えたことになる。残り半分の五十枚についても頑張ってお覚えしてほしい。

五五五 決まり字・下の句対照表 五五五

《み》

「みせ」……ぬれにそぬれしいろはかはらす
 「みち」……みたれそめにしわれならなくに
 「みよ」……ふるさとさむくころもうつなり
 「みかき」……ひるはきえつつものをこそおもへ
 「みかの」……いつみきとてかこひしかるらむ

[II] 《復習》 ～五十枚の札をおさらいしよう～

では、取札百枚の中から今までに覚えた札五十枚を選び出そう。まずは、取札だけを見て探してみる。もしも忘れてしまっている札があったら、詠札を見て探す。詠札を見ても忘れてしまって探せないようだったら、本稿をめくって探す。最初から本稿をみて探したほうが楽だろうが、手間をかけ苦労したほうが、その忘れていた札に対して印象が強く残

るものである。すでに覚えた札を別にしておいた人はあえて百枚混ぜて探し直すことはない(したい人を止めはしないが)。その五十枚を使用すればよい。なお、取札だけを見て今まで覚えた札を探す時、似たような取札があるので、くれぐれも注意してほしい。

五十枚の取札が用意できたら、その札をよく混ぜて裏返して一山にする。その山になった札を一枚ずつめくりながら、即座に決まり字を言っていく。忘れていたり、暗記が確かでない札は、脳に除けておいて覚えるまで何度でも繰り返す。五十枚を完璧にマスターしてから次のステップに進むことが肝心である。覚えられなかったら、ここで足止めて、覚えられるようになるまでひたすら繰り返す。手間や時間をかけずに覚えたいといって、しっかりと覚えていないままに先に進まないようにしてほしい。何も焦ることはない。札を覚えることが基本中の基本である。足踏みし、時間をかけてもよいから、確実に覚えていくことをおすすめする。健闘を祈る。

五五五五五 札音 (3) 五五五五五

～坊主の枚数～

坊主めくりの話をしたついでに坊主の札が何枚あるかという話をしよう。坊主の札は、普通の札ならば十三枚ある。以下の詠人が、坊主である。

素性法師	蟬丸	僧正遍昭
能因法師	惠慶法師	前大僧正行尊
喜撰法師	良運法師	道因法師
俊恵法師	西行法師	寂蓮法師
前大僧正慈円		

中でも、蟬丸は頭巾を被っている絵が多いが、この札は坊主である。また、絵が官人なので、坊主めくりでは坊主札にしないが、実は出家して坊主だという詠人が二人ほどいる(ごく稀に、この二枚の札が坊主の絵になっている札もある)。この二人、一人は「入道前太政大臣」で、もう一人は小倉百人一首の中で最も名前の長いことで有名な「法性寺入道前関白太政大臣」である。二人とも名前にあるように「入道」しているわけで、実は坊主の仲間だったのである。

五五五五五 札音 五五五五五